

『飛び降りると雨』 作…ポチ子

昼休みの教室で話す、二人の少女

凧 「飛び降りのシーンって、なんで晴れてるんだろ？」

南 「飛び降りのシーン？」

凧 「ほら、ドラマであるじゃん？屋上で自殺しようとする誰かを、感動的なセリフで思い直させる展開。」

南 「ああ、あるね。あるけど、急にどうしたのよ。」

凧 「いや昨日、そのありがちなシーンがあるドラマ見ててさ。それで思ったんだよねー、なんで晴れてるんだろって。」

南 「うーん。確かに、晴れが多い？かも。」

凧 「なんでなんだろ？」

南 「なんでって・・・、そこまで不思議に感じたことないけど。」

凧 「だってさ、ドラマとか小説の天気って、めちゃくちゃ感情に左右されない？主人公とヒロインが別れるシーンだと、突如土砂降りになるし、逆に抱き合った瞬間に晴れ渡ったり。そう考えると、飛び降りのシーンは、曇りか雨の方がふさわしいと思わん？」

南 「ああ、言われるとそうだね。」

凧 「そういえば、雪がドカ降りの飛び降りシーンも見たことないな。」

南 「大抵、舞台東京だからね。さすがに雪は違和感でしょ。」

凧 「そうか。」

南 「単純に見栄えの問題じゃない？ 晴れてるほうが画が綺麗じゃん。」

凧 「確かに。でもさ、飛び降り以外の自殺シーンとか、ナイフで刺されて仲間が死ぬシーンとか、そっちは大体雨じゃない？」

南 「あと、主人公の恋人が事故にあうシーンとかね。」

凧 「ああ、それもだね。」

南 「そういうシーンって回想とか、過去のトラウマ的なポジションで出てくることが多いじゃん？ それも関係あるのかもね。悲しいシーンであることをより強調する意味合いで雨を降らすのかも。飛び降りのシーンって大概学校の屋上だし、学校イコール青春、青春イコール青空みたいな。そういうイメージを連想させたいのかも。」

凧 「でも、飛び降りようとするキャラって、そんな青春を謳歌できなかったタイプが多いよね。」

南 「悲しいもんだね。」

凧 「なんで、こんな話してたんだっけ？」

南 「あんたが突然話し始めたんでしょ？」

凧 「そうだったっけ？なんか、頭使ったらお菓子食べたくなっ

てきた。購買行ってくる！」

— 終わり —